

就労移行支援事業所連絡会

令和 3 年度年度総括

～就労移行支援事業所連絡会（以下、連絡会）とは～

「地域の就労系福祉サービスの中核として、連携・研鑽・発信を行う」ことを目的に活動しています。令和 3 年度は「関係性づくり」と「支援員のスキルアップ」という活動方針のもと、毎月定例で開催しながら、情報共有や各事業所の見学会等の活動を行いました。会を重ねるごとに、各事業所の代表者の顔が見える関係性が構築されてきています。

活動の振り返り

事業所見学会（7 月・11 月）

今年度は 2 事業所で行いました。作業見学に加えて、実際に使用しているアセスメント・活動記録の書式等の共有がされ、参加者が他事業所の取り組みを知る機会になりました。さらに見学の受け入れ先となった事業所からは、自事業所の普段の支援方法を振り返る良い機会になった、受け入れ対応をした支援員の人材育成に繋がったとの声が聞かれました。

グローアップ研修（8 月）

連絡会内でのアンケートをもとに、“就労支援のプロセスに沿った対象者支援”と“企業との関わり”をテーマに企画しました。特に企業との関わりについてのグループワークとロールプレイを通じた学びに反響がありました。連絡会内での振り返りでは、基礎的かつ定期的な研修の必要性が話題に挙げられました。コロナ禍の影響で各種研修の実施や参加が困難な場合が多く、支援員のモチベーション維持の効果も伺えました。

企業×福祉の意見交換会（1 月）

就職者を送り出す福祉側、就職者を受け入れる企業側双方の希望で実現した意見交換の場です。雇用促進・就労定着プロジェクト参加企業からの意見をいただき、改めてお互いの関係性が大切であると感じました。就職後に働き続けるために、企業側へ必要な配慮点や就職後に予想される課題点について、福祉側からしっかりと伝えられる訓練機関としての役割の重要性を再確認することが出来た取り組みでした。

次年度に向けて

【課題】

- ・継続するための受け入れ事業所の負担軽減
- ・見学に重きを置くことで内容が深まりづらい
- ・現場支援員や連絡会以外の事業所の参加に至らなかった

【今後の検討事項】

- ・共通項目と深掘りしたいテーマを具体的に設定
- ・作業活動・就労プログラムの体験
- ・参加者の範囲拡大を検討

【課題】

- ・日中活動や送迎への対応による、参加率の低下
- ・研修参加後に事業所レベルでの経験共有をしきれていない

【今後の検討事項】

- ・スキルアップに関するニーズ調査の方法・優先順位づけ
- ・連絡会や研修に参加した支援員からの伝達や学習会
- ・実践に基づく成功事例や悩んでいる事例の共有と検討

【課題】

- ・企業支援に必要なスキルが不足している
- ・企業側のニーズを知る機会が少ない

【今後の検討事項】

- ・企業との接点を持つ機会の設定
- ・連絡会の活動の周知（広報）やイベントの開催
- ・障がい者雇用促進のための活動

【後記】

今年度はほぼ毎月定例で連絡会を開催し、顔を見合わせての継続した情報共有や意見交換の場を持つことが出来ました。見学会等の取り組みを通して、今までなかった事業所間のやりとりが生まれたことで、年度当初に掲げた活動方針の 1 つである「関係性づくり」に関して、一定の効果がうかがえました。もう 1 つの方針であった「支援員のスキルアップ」に関しては、意見交換やグローアップ研修での学びによって効果を感じた支援員や事業所がいる一方で、支援員の参加調整が出来ずに事業所レベルでは効果の実感が難しかったという意見もありました。

年度総括では、『連絡会をどのくらいの規模や内容で行うかは事業所毎で考え方や対応できる範囲が異なる。より効果的で効率的な活動のために、参加事業所が連絡会の活動方針について共通認識を持つ必要がある』という意見も寄せられ、次年度の重要課題になります。また、他就労支援サービスを始めとする関係機関や企業からのニーズも聞こえてきており、連絡会への期待にどう応えるかを検討する年になりそうです。